

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-730	15-038	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Social, lifestyle and demographic inequalities in hypertension care. 高血圧治療における社会的要因、生活習慣及び人口統計学的な格差		
執筆者		
Sivén SS, Niiranen TJ, Aromaa A, Koskinen S, Jula AM.		
掲載誌		
Scand J Public Health. 2015 May;43(3):246-53. doi: 10.1177/1403494815571031.		
キーワード		PMID
高血圧, 血圧, 有病率, 社会経済的		25724469
要 旨		
<p>目的： 高血圧の有病率もしくは治療における社会的、人口統計学的な格差についての全国規模での検討はまだ十分ではない。本研究ではフィンランド全国の成人集団から抽出した代表サンプルを用いて、社会人口統計学のおよび生活習慣と高血圧の有病率、認知率、治療率、コントロール率との関連を検討した。</p> <p>方法： 対象者は、フィンランド成人集団を代表し 2000～2001 年に健診を受診した 18 歳以上の 9,922 人である。同対象者 4,729 人(参加率 58%)について 2011 年に健診及び面接調査し、データ欠損を除いた 4,230 人(平均 55.2 歳、男性 44.5%)を解析対象とした。健康状態(既往、服薬等)、社会経済要因(婚姻、就業、教育歴等)、生活習慣(喫煙、飲酒、身体活動等)について、訓練を受けた看護師等による面接にて調査した。血圧は 5 分間の安静後 2 回測定した平均値を用いた。高血圧の定義は診察時血圧 140/90mmHg 以上あるいは降圧剤使用とした。重み付け回帰モデルにて社会人口統計学的及び生活習慣要因と高血圧の有病率、認知率、治療率、コントロール率との関連を検討した。</p> <p>結果： フィンランド人における高血圧の有病率は 47%、認知率は 57%、治療率は 51%、コントロール率は 48%だった。高血圧は高齢、男性、退職、離婚または死別、低学歴、肥満、多量飲酒、低身体活動と関連していた。一方、若年、退職していない、肥満でない、高身体活動は低い認知率と治療率に関連していた。高血圧のコントロール率は若年者で良好であった。</p> <p>結論： フィンランドでは、高血圧の高い有病率と中等度の治療率に加えて、高血圧治療における社会人口統計学的かつ生活習慣の深刻な格差が存在した。高血圧は、有害な生活を持ち、低い社会経済状況の高齢者で見られる。しかしながら高血圧は、低リスクの人々の間でも、しばしば認識されず未治療である。</p>		